

春の足音が聞こえてまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

冷たい河原は冬枯れの草に覆われ
葉のない木の枝が青空に広がっています。
落ち葉や砂が舞い上がり、
春一番が辺りを掃除してゆきます。
今日も快晴。
今夜は華やかな冬の星座も静かに巡り、
落ち着いた空には春の微星や銀河が舞い上がってきそうです。

それでは今月も行ってみましょう。

2026年 2月

【主な現象】

2月 2日	満月 (7時09分)
2月 9日	下弦 (半月) (21時43分)
2月11日	月が最遠 (1時52分)
2月12日	天王星が東矩 (0時30分)
2月17日	新月 (21時38分) 南極地方で金環日食
2月20日	水星が東方最大離角 (2時41分)
2月24日	上弦 (半月) (21時28分)
2月25日	月が最近 (8時14分)

【解説】

★水星が夕方西の空に見やすくなります。

2月20日が東方最大離角で日没30分後の高度が10.7°となります。2月初頭から低いながら西の空にいて2月中は夕方西の空にいます。

東方最大離角の頃は、金星の上に見えて、左上には土星が見えます。他に明るい星は無いので見つけやすいでしょう。

★天王星が夕方の見やすい時間に高く昇っています。

プレヤデス星団の南約10°の辺りにいますので、望遠鏡や双眼鏡で探して見ましょう。

★カノープス (α Car) が宵の見やすい時刻に南中する様になります。南の地平線までよく晴れている時、南中時刻に真南の地平線の近くを探してみましょう。おおいぬ座の β (前足にあたる2等星) とほぼ同時に南中するので、 β で真南の見当を付けて真っ直ぐ下を探します。南の地平線まで見えるところで、地平線まで雲が無く澄んだ日にチャレンジしてみてください。

【観望案内】

★接近

- △ 2月下旬 水星と金星と土星が
夕方西の地平線近く（18時20分以前）で
接近して見えます。
見ごろは18時00分ごろでしょう。
- 2月03日 レグルスと月（月齢14.8）が
夜半南の空（2月02日18時30分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 0時00分ごろでしょう。
- 2月07日 スピカと月（月齢18.9）が
未明に南の空（2月06日22時30分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 3時00分ごろでしょう。
- 2月11日 アンタレスと月（月齢22.9）が
明け方南東の空（2時10分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 5時00分ごろでしょう。
- △ 2月18日 金星と細い月（月齢 0.9）が
日没後に西の地平線近く（18時18分以前）で
かなり接近して見えます。
見ごろは18時00分ごろでしょう。
- 2月19日 水星と土星と細い月（月齢 1.9）が
日没後に西の地平線近く（18時50分以前）で
接近して見えます。
見ごろは18時00分ごろでしょう。
- 2月20日 土星と細い月（月齢 2.9）が
夕方西の低い空（19時40分以前）で
接近して見えます。
見ごろは19時00分ごろでしょう。
- 2月27日 ポルックスと木星と月（月齢10.0）が
宵に南の空（2月28日 3時30分以前）で
かなり接近して見えます。
見ごろは20時00分ごろでしょう。

- ※ ◎：非常に接近するか、見た目が特にきれいと思います。
○：見ておもしろいと思います。
△：高度が低かったり、薄明の中であつたりで見にくいと思います。
但し、朝焼けや夕焼けと山の稜線も入れて写真にする等
意外とおもしろい可能性はあります。
◇：双眼鏡や望遠鏡で見られます。

★日没

東京での日没は

2月 1日	17時08分
2月 8日	17時15分
2月15日	17時22分
2月22日	17時29分

日の暮れるのが少し遅くなってきた様に感じられます。

1日に1分程度のペースで、少しずつ日の暮れるのが
遅くなってゆきます。

★今宵の空

日が暮れると（18時～19時ごろ）

冬の星座が出そろっています。

天頂付近 おうし座、ペルセウス座、ぎょしゃ座

南の空

高 オリオン座

中 うさぎ座、はと座、ちょうこくぐ座、ろ座

低 がか座、かじき座、とけい座の一部、エリダヌス座

南西の空

中 くじら座

西の空

高 おひつじ座、さんかく座

中 うお座、アンドロメダ座

低 土星、ペガサス座

北西の空

高 カシオペヤ座

中 とかげ座

北の空

高 きりん座

中 ケフェウス座、こぐま座

低 りゅう座

北東の空

高 やまねこ座

中 おおぐま座、

東の空

高 木星、ふたご座

中 かに座、こじし座、こいぬ座、うみへび座の頭、

低 しし座の頭

南東の空

高 いかくじゅう座

中 おおいぬ座

が出ています。

★星のお話

りゅうこつ座[竜骨]

設定者：ラカイユ

Carina (Car)

面積：494平方度

《The Keel》

りゅうこつ座を見てみましょう。

りゅうこつ座は南天の星座で、日本からではごく一部しか見えません。しかし、そのわずかに見える星は知る人ぞ知る有名な星カノープスです。

竜骨とは、船の船首から船尾にわたる船底の中心となる部分です。

元は、アルゴ号という船を表した非常に大きな星座アルゴ座の一部でした。^{★01)}

古代メソポタミアではこの辺りが見えなかったためか、それらしきものはありません。

古代ギリシアアラトスの詩には

「大犬の尾に接するようアルゴー船はその艫から曳かれてくる。

もちろん、これは本来の航行の姿ではない。

後ろ向きに進んでいる。ちょうど、停泊地に入っていくために、

すでに船乗りたちが船尾の向きをそちらへ合わせ終えた

現実（地上）の船のように。それですばやく全員で船を逆漕させると、

船は艫の方から陸地へしっかと結わえられる。

まさしくこのように、イアソンのアルゴー船は艫から曳かれてくるのだ。

舳先から帆柱そのものまでは、靄のかかったようで

星もないまま進むが、ほかはすべて輝いている。

その舵もぶらりと下がったまま、前を行く犬の

後足のすぐ下のあたりに据えつけられている。」^{★02)}

と歌われています。

アルゴ座があまりにも大きいからというので、^{★01)}フランスの天文学者ラカイユが、1763年に発表した星表で、^{★03)}アルゴ座を、とも座（船尾）、ほ座（帆）、らしんばん座（羅針盤）、りゅうこつ座（竜骨）の4つの星座に分けてしまいました。^{★01)}

*星の並び

おおいぬ座が真南に見える頃、南の地平線までよく晴れていると、南の地平線の少し上に、星が見えることがあります。

この星が、りゅうこつ座の α 星カノープスです。

—1等のカノープスでも高度が非常に低いため大気によって減光してしまい、よく見えても見た目の印象は2等星程度で、南方の遠くまで雲が全く無く、空の透明度が非常に良くないと見えないので、なかなか見る機会がありません。その他の星は、低空のためまず分かりません。双眼鏡か写真で確認できる程度でしょう。

*星の名前

α はカノープス（トロイア戦争でギリシア軍のメネラオス艦隊の水先案内をしていたカノポスの名にちなむ）^{★01)}

スハイル「平原」（古代アラビアでは南の地平線に見えるので平原の星と見て、砂漠で方角を知るために重要視された）^{★04)}

スヘル「雄馬」（アラビア名）^{★05)}

β はミアプラシダス（意味不明）^{★05)}

ミアフラシダス（意味不明）^{★06)}

ι はトゥレイス（意味不明）^{★05)}

ツレイス（意味不明）^{★06)}

と言う名前が付いています。

他に I A U で定められている名前は、 ϵ Avior、 ι Aspidiske
があります。*⁰⁷⁾

* 観望

日本からは、カノープス以外に何も見えませんが、この星座には
見応えのある天体が多くあります。

散光星雲 NGC 3372 (イータ・カリーナ) (肉眼) *⁰⁸⁾

散開星団 [NGC 2516](#) (肉眼) *⁰⁵⁾

散開星団 [NGC 3114](#) (肉眼) *⁰⁵⁾

散開星団 [IC 2602](#) (肉眼) *⁰⁵⁾

* 補足

α のカノープスは、シリウスに次いで、全天で 2 番目に明るい星です。

[表面温度は 7500° K で太陽の 2 万倍の明るさです。](#) *⁰⁵⁾

η 星の周りには非常に大きくて明るいので有名な巨大な散光星雲
イータ・カリーナ星雲 (NGC 3372) がありますが、南十字星と
同程度の赤緯なので、日本からはほとんど見えません。

[\$\eta\$ 星は奇妙な変光星で、ハレーが 1677 年に観測した時は 4 等星、
1843 年には -0.8 等星 \(カノープスと同程度の明るさ\)、1900 年
以降は、6 等星 ~ 8 等星の間で変光しています。](#) *⁰⁵⁾ 質量が太陽の

100 倍で星として存在できる限界の大きさです。100 年間で
太陽 7 個分のガスを周囲に噴出しています。*⁰⁸⁾

[NGC 3372 は \$\eta\$ が変光するのに応じて明るさが変化します。](#) *⁰⁵⁾

* ギリシア神話では、分割される前の星座アルゴ座の話で、イアーソン
がコルキスの国の金毛の羊の皮を奪いに行くために作らせた船アルゴ号と
言うことになっています。

* 日本では、星座全体が見えないので専らカノープスの話になりますが、
南の水平線からわずかに昇ってすぐに沈んでしまいなかなか見られない
珍しい星でのためか、意外と知られていた様で各地でさまざまな伝説や
見方があります。

「めらぼし」(房州布良：千葉県館山市布良、伊東：静岡県伊東市) 布良星

この星が現れると必ず暴風雨になるという。

(房州勝浦：千葉県勝浦市) 西南風の強い日に限って見える。

遭難した漁師たちの霊が星に乗り移るという。

「かずさのおしょうぼし」(茨城県南部) 上総の和尚星

上総の和尚さんが常陸を旅している間に殺された時

私が死んだら雨の降る前の晩に南の空に現れると

言い残した。その通り、雨の降る前の晩には、

南方の上総の山の山際に、うらめしそうにぼんやり

とした大きな星が現れるという。

「にゅうじょうぼし」(外房一帯：千葉県南東部) 入定星

遭難する漁師たちが多いのを悲しみ、入定したお坊さんが

いた。入定の前に、私が死んだら、星になって南の低い

空に現れるから、それを見たら海がしけるので

漁に出ない様に、といい残したという。

「みなみのひとつぼし」(鎌倉の腰越：神奈川県鎌倉市腰越)

「さぬきのおおちゃくぼし」(岡山)

讃岐の方向に見え、横着にすぐ沈むため

「とさのおおちゃくぼし」(讃岐：香川県)

土佐の方向に見え、横着にすぐ沈むため

「なるとぼし」(播磨地方：兵庫県南西部) 鳴戸星

寒くなると南の鳴戸の方に見えて位置が変わらないという

「ざぶざぶぼし」(播磨地方：兵庫県南西部)

寒くなると見えるため

「あわじぼし」(高砂地方：兵庫県高砂市)

漁に出ると淡路の方向から昇るため

「あきらぼし」(播州の東二見：兵庫県明石市二見町東二見)

(秋タコ星の意味)

この星が出ると、秋のタコの取れる季節になるという

「ひがんぼし」(播州の東二見：兵庫県明石市二見町東二見) 彼岸星

彼岸を過ぎれば明け方に出るため^{☆09)}

* 中国では「南極老人星^{☆10)}」「南極寿星^{☆10)}」と呼ばれ、南極にあると考えられていました。南はめでたい方角で、これが見えた年は国が平和になる^{☆10)}、これを見ると長生きできる、と信じられていました。宋の時代に南極老人星の化身が現れ、居酒屋にあるだけの酒をちたいらげて廻るので、皇帝もよろこんで酒をふるまいましたが、天文博士の観測報告で南極老人星の化身と分かったと言う話です。このとき、書き写された老人の姿が、日本の七福神の寿老人のもとになったと言われています。^{☆10)}

☆01)【星座手帖 草下英明 社会思想社】

☆02)【アラトス「星辰譜」(ギリシア教訓叙事詩集) 伊藤照夫訳 京都大学学術出版会】

☆03)【天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社】

☆04)【星の百科 草下英明 社会思想社】

☆05)【カラー天文百科 小平桂一 監修 平凡社】

☆06)【星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣】

☆07)【IAU https://www.iau.org/public/themes/naming_stars/】

☆08)【星座 沼澤茂美・脇屋奈々代 ナツメ社】

☆09)【日本の星 野尻抱影 中央公論社】

☆10)【星と伝説 野尻抱影 偕成社】

★夜更けの空

夜が更けると（22時～23時ごろ）

春の星座も見え始めます。

天頂付近の空 かに座、やまねこ座

南の空

- 高 うみへび座の頭、こいぬ座
- 中 とも座、らしんばん座、ポンプ座
- 低 ほ座の一部

南西の空

- 高 木星、ふたご座、いっかくじゅう座
- 中 オリオン座、うさぎ座、はと座

西の空

- 高 ぎょしゃ座
- 中 おうし座
- 低 おひつじ座、エリダヌス座の一部

北西の空

- 中 ペルセウス座、カシオペヤ座、さんかく座
- 低 アンドロメダ座の一部

北の空

- 高 きりん座
- 中 こぐま座、りゅう座
- 低 ケフェウス座

北東の空

- 高 おおぐま座
- 中 りょうけん座、うしかい座
- 低 かんむり座

東の空

- 高 こじし座、しし座、
- 中 かみのけ座、おとめ座

南東の空

- 高 ろくぶんぎ座
- 中 コップ座、からす座

が出ています。

★惑星

水星は、下旬に夕方西の低い空に見えます。

2月20日が東方最大離角で日没30分後の高度が10.7°となります。2月中は夕方西の空にいます。

2月 1日は、17時41分に沈みます。

2月 8日は、18時16分に沈みます。

2月15日は、18時45分に沈みます。

2月22日は、18時55分に沈みます。

金星は、中旬以降、夕方西の地平線近くに見えます。

上旬はまだ太陽に近く日没後すぐに沈みます。

2月 1日は、12時20分に南中し、17時35分に沈みます。

2月 8日は、12時27分に南中し、17時50分に沈みます。

2月15日は、12時33分に南中し、18時06分に沈みます。

2月22日は、12時38分に南中し、18時21分に沈みます。

火星は、やぎ座にいて、太陽の近くにいます。

2月 1日は、6時30分に昇り、11時34分に南中します。

2月 8日は、6時20分に昇り、11時28分に南中します。

2月15日は、6時09分に昇り、11時23分に南中します。

2月22日は、5時58分に昇り、11時17分に南中します。

木星は、ふたご座にいて、宵に南の高い空によく見えます。

2月 1日は、22時09分に南中し、5時25分に沈みます。

2月 8日は、21時39分に南中し、4時55分に沈みます。

2月15日は、21時08分に南中し、4時25分に沈みます。

2月22日は、20時39分に南中し、3時56分に沈みます。

土星は、うお座にいて夕方南西の低い空に見えます。

2月 1日は、20時49分に沈みます。

2月 8日は、20時24分に沈みます。

2月15日は、20時01分に沈みます。

2月22日は、19時37分に沈みます。

天王星は、おうし座にいて、宵に南西の高い空にいます。

2月 1日は、18時35分に南中し、1時40分に沈みます。

2月 8日は、18時08分に南中し、1時12分に沈みます。

2月15日は、17時41分に南中し、0時45分に沈みます。

2月22日は、17時13分に南中し、0時18分に沈みます。

海王星は、うお座にいて夕方南西の低い空にいます。

2月 1日は、14時58分に南中し、20時56分に沈みます。

2月 8日は、14時31分に南中し、20時30分に沈みます。

2月15日は、14時04分に南中し、20時03分に沈みます。

2月22日は、13時38分に南中し、19時37分に沈みます。

(出没の時刻は東京での目安です)

【スター紹介】

★M41★NGC2287

おおいぬ座にある散開星団です

距離は2470光年、大きさは22光年、見かけの大きさは30' ^{★11)}で、
我々の銀河系内の星団です。

散開星団としてはめずらしく、K型の巨星がたくさん含まれています。 ^{★12)}

冬の空には他に豪華な星雲・星団がたくさんあるので影の薄い存在ですが、
双眼鏡や小望遠鏡を使うと都会からでもよく見えます。

シリウスのすぐ下(4°南)にあって見つけやすい星団です。

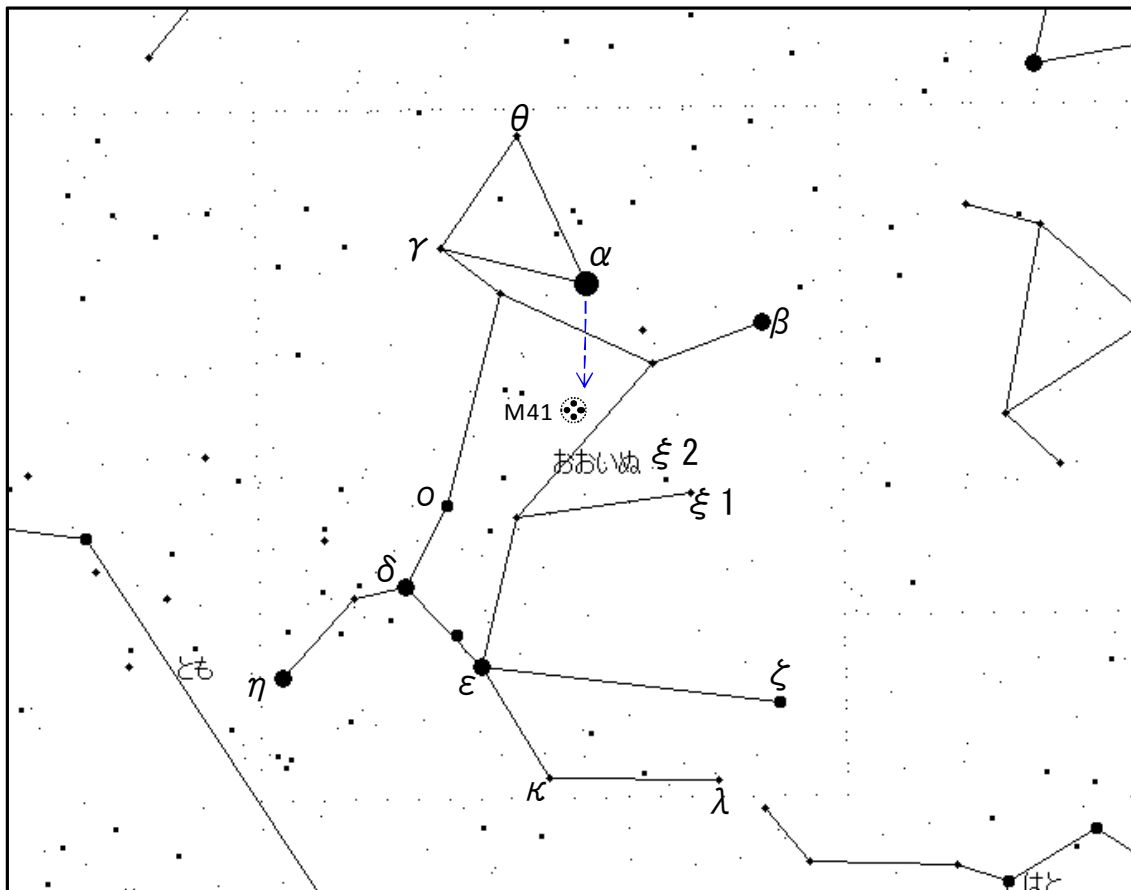
双眼鏡や望遠鏡で、星をたどって星雲・星団を探す練習や、望遠鏡の操作の
練習にちょうどいい星団です。

双眼鏡や望遠鏡なら都会でも見ることができます。

冬の天の川が見える様な空の良いところでは、肉眼でも何となくぼんやり
光っているのが分かります。

双眼鏡や口径5cm程度の小望遠鏡で見ると星が集まっているという感じが
よく解ります。10cm程度の望遠鏡では視野いっぱいに星が広がって
見えます。

望遠鏡で見ると中央に1つオレンジ色の目立つ星がありますので
探してみましょう。





M 4 1 口径 1 3 c mにて撮影

☆11) 【天文年鑑 2 0 2 6 年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社】

☆12) 【メシエ天体アルバム 月刊天文ガイド別冊 下保茂 誠文堂新光社】

【まめ知識】

★流星観測データの補正★

流星の出現の程度を表すのに 1 時間出現数 (HR) を用います。

1 時間出現数は 1 時間当たり何個出現したかを表します。

1 時間出現数 (HR) = 流星出現数 / 観測時間 (分) × 6 0

しかし、出現数は観測の条件によって左右されるので、過去のデータ等と比較する時観測の条件を考慮する必要があります。

このため、観測データを補正する必要があります。

補正は

- 1 理想的な晴天の観測で
- 2 輻射点为天頂にある時
- 3 一人の観測者が
- 4 1 時間に見る流星数

の観点で行います。

最微光星の等級	6. 5	6. 0	5. 5	5. 0	4. 5	4. 0
最微光星補正值	1. 0	0. 9	0. 8	0. 7	0. 6	0. 5

最微光星の等級	3. 5	3. 0	2. 5	2. 0
最微光星補正值	0. 4	0. 3	0. 2	0. 1

補正された 1 時間当たりの出現数 (CHR)

$CHR = 1 \text{ 時間当たりの出現数 (HR)} / \text{最微光星補正值}$

となりますが、雲があった場合

全視野を 1 0 として

雲量	1	2	3	4	5	6 以上の空は
雲量補正值	0. 1	0. 1	0. 2	0. 3	0. 4	参考観測とする

$CHR = 1 \text{ 時間当たりの出現数 (HR)} / (\text{最微光星補正值} - \text{雲量補正值})$ とします。

輻射点が天頂にあるとした時補正は、

$$\text{輻射点補正值} = \sin(h + 7 \times \cos h) \quad h = \text{輻射点の地平高度} (^\circ)$$

補正は

C H R / 輻射点補正值

となります。

人数の補正はほぼ重複無く分担した時に有効です。

人数	1	2	3	4	5
人数補正值	1.0	1.9	2.5	2.9	3.2

人数	6	7	8
人数補正值	3.5	3.8	4.0

補正は

$$1 \text{ 人当たりの流星数} = 1 \text{ 時間当たりの平均出現数} / \text{人数補正值}$$

となります。

最微光星、雲量、輻射点、人数、の全てを補正された値をZHRと言います。

輻射点高度は時間とともに変化するので、データを1時間ごとに区切って補正すべきとされています。☆13)

☆13) 【アストラルシリーズ2 流星I 斎藤馨児 長沢工 編 恒星社厚生閣】

付録

★水星の日没30分後の高度 2010年（東京）

	時刻	高度°	方位角°	離角°
2月 1日	17時40分	-0.3	69.7	8
2月 2日	17時41分	0.4	70.0	9
2月 3日	17時42分	1.2	70.2	10
2月 4日	17時43分	2.0	70.5	10
2月 5日	17時44分	2.7	70.8	11
2月 6日	17時45分	3.5	71.1	11
2月 7日	17時46分	4.3	71.4	12
2月 8日	17時47分	5.0	71.8	13
2月 9日	17時48分	5.7	72.2	13
2月10日	17時49分	6.5	72.6	14
2月11日	17時50分	7.2	73.0	14
2月12日	17時51分	7.8	73.5	15
2月13日	17時52分	8.4	74.0	16
2月14日	17時53分	9.0	74.6	16
2月15日	17時54分	9.5	75.2	17
2月16日	17時55分	9.9	75.8	17
2月17日	17時56分	10.3	76.4	18
2月18日	17時57分	10.5	77.1	18
2月19日	17時58分	10.7	77.9	18
2月20日	17時59分	10.7	78.6	18
2月21日	18時00分	10.6	79.4	18
2月22日	18時01分	10.3	80.3	18
2月23日	18時02分	9.9	81.1	17
2月24日	18時03分	9.4	82.0	17
2月25日	18時04分	8.6	83.0	16
2月26日	18時05分	7.8	83.9	15
2月27日	18時06分	6.7	84.9	14
2月28日	18時07分	5.5	85.8	13

★αCar（カノーパス）南中時刻 2026年（東京）

02月01日	21時18分
02月02日	21時14分
02月03日	21時10分
02月04日	21時07分
02月05日	21時03分
02月06日	20時59分
02月07日	20時55分
02月08日	20時51分
02月09日	20時47分
02月10日	20時43分
02月11日	20時39分
02月12日	20時35分
02月13日	20時31分
02月14日	20時27分
02月15日	20時23分

02月16日	20時19分
02月17日	20時15分
02月18日	20時12分
02月19日	20時08分
02月20日	20時04分
02月21日	19時60分
02月22日	19時56分
02月23日	19時52分
02月24日	19時48分
02月25日	19時44分
02月26日	19時40分
02月27日	19時36分
02月28日	19時32分

それではまた。

参考文献

- ☆01) 星座手帖 草下英明 社会思想社
- ☆02) アラトス「星辰譜」(ギリシア教訓叙事詩集)
伊藤照夫訳 京都大学学術出版会
- ☆03) 天文の事典 小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修 平凡社
- ☆04) 星の百科 草下英明 社会思想社
- ☆05) カラー天文百科 小平桂一 監修 平凡社
- ☆06) 星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣
- ☆07) IAU https://www.iau.org/public/themes/naming_stars/
- ☆08) 星座 沼澤茂美・脇屋奈々代 ナツメ社
- ☆09) 日本の星 野尻抱影 中央公論社
- ☆10) 星と伝説 野尻抱影 偕成社
- ☆11) 天文年鑑2026年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社
- ☆12) メシエ天体アルバム 月刊天文ガイド別冊 下保茂 誠文堂新光社
- ☆13) アストラルシリーズ2 流星I
斎藤馨児 長沢工 編 恒星社厚生閣